

甲状腺外科草子 119

藤堂高虎の遺訓：高山公二百ヶ条⑤

杉野圭三

ようやく長い二百箇条の 1/4 まできた。

第 50 条 我か巋履成人言イ事する時善悪のひはんに及ふ時ひいきなる人を大にほめあい手を悪敷不可申あい手ひけをとりたると思ひ打はたす也ひいき成人を思ハハ両方難も不付様にて言あひてきつくひけ取たらハ不及是非事也（自分がひいきしている人が言い争いをする時、善悪の批判をする時、ひいきしている人をほめ、相手を悪くいうべからず。相手は負けたと思ひ、打ちたすからである。ひいきしている人と思うなら、両方難をつけないように言い、結局負けるならば、これはしかたがない）

論争の判断は公平に、温和な決着が重要！

第 51 条 少事ハ大事大事ハ少事と心得へし大事の時ハ一門知音中打寄談合するにより大事には不成なり少事ハ大事と言ハ一言の儀にて打はたす也然ルゆへ少事は大事と可慎

（小事は大事であり、大事は小事であると心得るべきだ。大事の時は、親戚一門が寄り合って相談するから大事にはならない。小事は大事、というのは、一言で済ませるからである。だから小事は大事と慎むべきである）

些細なことも判断は重要！

第 55 条 傍輩衆おとつる時ハ何様の事あり共逢へきなり心易衆におみてハ急用候間調可申と断急用可達なり

（友達衆が訪れた場合は、どんなことをしても会うべきである。心易い人たちならば、急用があるので、と断り、急用を済ますべきである）

確かに！確かに！

第 87 条 学文すき物の本集る共不学人はいらさる物の本に金銀をついやす道理なり諺に論語読の論語読ずと嘲なり大形見及に心ハ邪にて景気斗の学者して見せ顔なる人多し

（学問や好学者の本を集めても学ばない人は、要

らない本に金銀を費やす道理だ。諺に論語読みの論語読まずという嘲りがある。大体見ると、よこしまで景気ばかりの学者づらをする人が多い）

第 88 条 物を知くさしたる人物しり顔にてそばつら成事を語る 脇より聞けハ笑止なり物を不知人の咄はるかまし也

（物事を中途半端に知る人が、物知り顔にいい加減なことを語る。脇で聞けば、笑止ものである。物を知らない人の話の方がはるかにましである）
学問をひけらかす輩はいつの世も嫌われる。

第 89 条 人の害に成漸ハ不及申害にならぬ漸にても咄聞る人により咄ても不苦か脇にてむさと不可咄人の偽我偽と成事多し心有人ハ知たる事も不知やうにもてなし嗜む是以はつかしき心根成へし

（他人の害にある話は言うまでもない。害にならない話でも、話を聞く人によっては話してもいいが、脇にいて簡単に話してはいけない。他人の偽りは、自分の偽りとなる事が多い。心ある人は、知ったことも、知らないことのようにふるまう。これは、ひかえめにするという心根である）

武田典厩信繁九十九箇条にも同様の記述あり。

第 91 条 何事によらず理つよに物事いふ間数なり理のかうしたるハ非の一倍と言たとへハ人のあつかふ時よき時分を不聞入ハあつかふ人も手をうしなひ立腹する也合点すべき所をこかし手持あしく石車に乗たることくにて止かたし分別肝要なり

（何事でも理詰めで物を言っではいけない。理の強いのは非の倍になるという喩えは、人を扱う時、程ほどにしておかないと扱う人も手立てがなく立腹するものである。納得する機会をのがし、調子に乗り、しくじることになる。分別が肝要である）

論争の時に正論ばかり振りかざし、相手を徹底的に叩きのめすのは「ガキの喧嘩」であろう。相手の立場にも配慮が必要。

参考資料：藤堂高虎公と遺訓二百ヶ条

（一甲状腺外科医の徒然なる随想）

2024年11月8日